

Disc 1

第3部 虚時層輪象編「時間帝国の逆襲」

01 時間帝国の逆襲 序曲 The Impractical Waltz

メインストーリー第3部全体のテーマ曲となります。私は第2部からコンポーザーとしてアナザーエデンに参加していますが、メインストーリー第3部では初めてメインサウンドディレクターとして全体の監修をさせて頂く事になり、最初に取り掛かった仕事がこの楽曲の制作なので、とても思い入れのある楽曲です。また、アナザーエデン初の複数人での編曲楽曲であり、オーケストレーションは山上さん、バンドアレンジは林さんをお願いしております。今までのアナデンサウンドのよさを結集しつつも、新たな冒険の幕開けを感じていただける楽曲になったかと思えます。(井上 幹)

02 月鉄の森

ダンジョン独特の雰囲気表現するため、美しいだけでなく、少し変わった感じも入れました。前半は中音域が得意なヴァイオリンをあえて主旋律に。後半は正統派なメロディーに寄りながら、先にコードで雰囲気を固め、後からメロディーを付けました。結果、口ずさむのが少々難しい不思議なメロディーができました。狙い通り絵にマッチしたので良かったです。(櫻木咲子)

03 ラジオ アイアンハート

第3部前編の一つのカギともなるラジオ アイアンハートのBGMです。イントロは放送が始まることを知らせるジングル(どちらかというとチャイム)をイメージしており、その後の展開は機械でありながらも心を持つ機人をモチーフに、鉄の冷たさと人の温かみの共存を音質と和声で表現しています。不思議でなかなか聞いたことのないような雰囲気の中にも懐かしさを感じるような作りにしました。(井上 幹)

04 ねじ式の村～機人逍遙～

花咲くのどかな村に所々存在する、機械仕掛けの装置。そしてそこから蒸気が立ち昇っているという不思議な世界観をどう表現するか、試行錯誤を繰り返しました。金属的なパーカッションに、穏やかに流麗なストリングスをすえる事により、結果として力強さと生命の息吹、生きる喜びのようなエネルギーを楽曲にうまく入れ込めたと思います。(桐田麻季)

05 機種ノラウ

すっかりアンビエントな雰囲気曲の専門の人となりつつあります。ハーブのアルペジオとシンセベルで洞窟の中の美しさを出しつつ、徐々に増えてくるストリングスのシーケンスフレーズで敵と遭遇するかもしれない緊張感を表現しています。今回のテーマが「スチームバンク」だったので、蒸気の噴き出る音や金属音をエッセンスに加えてみました。(秋田真典)

06 The Passionate Avalanche

サビで転調するという個人的なアナザーエデンバトル曲のポイントは押さえつつ、その他の部分では世界観に合わせた新しいチャレンジを色々としています。そんなサビですが、実は初稿ではフレーズが全く異なっていました。そちらはかなり難解なものだったのですが、「よりキャッチーなサビの方がアナザーエデンらしいよね」という開発からの声で、現在のVer.に落ち着きました。(土屋俊輔)

07 The Pandemic Elegance

実は、アナザーエデンでいつかプリプリのスラップベースとシャッフルビート炸裂の楽曲を作りたいと、ずっと機会をうかがっておりました。そして今回の第3部前編のスチームバンクな世界観と無骨なボスたち。今でしょ!!と思いつき、その想いを投下して見ましたが、いかがでしたでしょうか。我ながら、ハマったのではないかと自負しています。(林 茂樹)

08 オメガポリス下層

蒸気都市オメガポリスの下層で流れる楽曲です。スチームバンクの金属感と地下の少しの薄暗さ、そこで生活する人々の気配などを音で表現しました。実は蒸気都市オメガポリスの楽曲の一部をモチーフにして制作していて、つながりを持たせるようにしています。お分かりいただけましたでしょうか。(井上 幹)

09 ヴァイゼル山

山脈、岩肌、蒸気というキーワードから、ループ系パーカッションとズンズンと刻む低音が山の荒涼感を、蒸気のイメージを木管楽器で表現しています。第3部前編では「スチームバンク」が共通のイメージのため、アナザーエデンでは珍しい木管楽器(オーボエやファゴット)をメインにして組み立ててみました。(山上 毅)

10 生命工場～鋼鉄のユーテラス～

生命工場を探索するイメージをオーケストラ編成で表現してみました。この曲は楽器のセクションごとに役割を委ねる試みをしています。金管楽器の金属的な響きでスチームバンクのイメージを、弦楽器の刻みで生命の力強さを、そして木管楽器で機人の摩訶不思議な世界感を表現してみました。これらの別々の方向性がオーケストラの中で組み合わせられ、不思議なほど自然に編みあがりました。(林 茂樹)

11 蒸気都市 オメガポリス

蒸気に覆われた暗い部分と光が差し込んで開けた部分、そのような二面性を楽曲で表現してみました。これまでのアナザーエデンらしさを残しつつも、音使いやコード感は世界観に合わせてガラッと変えています。お気に入りポイントは、中盤からのストリングスがグッとくる部分。こういう歌い上げるようなメロディーが、個人的に大好きなんですよ。(土屋俊輔)